

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

平成27年 4月 13日

学 校 学 名		奨学金 交付年度	
氏 名			
留 学 期 間	平成26年 4月 20日 ~ 平成27年 3月 13日		
留 学 先	国 名	イギリス	学校名 マンチェスター大学
専攻	語学学習		

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

私が1年間イギリスのマンチェスターに滞在して感じたことはたくさんありますが、そのうちの1つは私自身がいかにかにいろいろな人に頼って生活しているかということがわかったということです。私は自分の故郷を離れて大阪という街で一人暮らしをするようになり、両親と離れて住むことにも慣れてきたため、私が大阪にいようがイギリスにいようがそんなことは全く関係ないと思っていました。しかし、国が違えばシステムが違うのも当然で、イギリスでは頻りに腹痛や体調不良などを起こし、その度にホストマザーに看病してもらったり、ルームメイトに心配してもらったり、日本にいる両親や友人にも心配と迷惑をかけてしまいました。1週間ウイルス性胃腸炎にかかり、学校を休んでいる中で、私は決して一人で生きているというわけではないこと、私がこんな状況でも両親は一生懸命働いて私に留学をさせるためのお金を稼いでくれたことがひしひしと感じられました。また、今回の語学留学を通して、語学力の向上はもちろんのことなのですが、世界中に数多くの友人を得ることができ、その友人たちを通して日本とは異なる文化や考え方を学ぶことができました。このことは、日本に帰ってから、自分が大学で研究しているときに物事をいろいろな視点から眺める能力として自分に身につけているということを実感できました。

この留学中に多くのことを学びましたが、それらは短期目標としては今後の自分自身のために生かしていきたいと思えます。私は現在大学4年次になり、卒業論文の執筆だけではなく、就職活動にも直面している状態です。3年次の1年間をすべてイギリスで語学学習のために費やしてしまい、周りの友人とは違って私は卒業論文のテーマも具体的に決まっておらず、3年次のインターンシップも参加することができず、かといって自己分析や企業研究等を積み重ねていたわけでもありません。しかし、この1年間は日本で過ごすよりも非常に充実した1年間で、企業等に大きくアピールできる点でもあるし、上述のように留学中に養ったいろいろな視点から物事を眺める能力は、卒業論文のテーマとなった事柄を調べるときに重要な能力です。他の学生から比べたら出遅れている点も多くあると思いますが、それは私が留学中に得た他の能力が補ってくれると強く感じています。また、帰国して日本料理屋でアルバイトを再開した際、私が得た語学力は外国人のお客様に対する接客のときに非常に役立ち、ただお食事やお飲物をお出しするだけではなく、お客様との会話を楽しむこともでき、中には私と記念撮影をしたいと言ってくくださる方や、私にチップをくださるお客様もいました。

大阪は現在でも大きな国際都市ですが、これからますます国際化が進んでいくことは言うまでもありません。これは私が留学中に感じたことなのですが、休暇で他のヨーロッパの国を訪れたとき、たとえその国が英語圏の国ではなくても、私が空港に着いたとき、中央駅に着いたとき、わからないことがあったらすぐに英語で聞くことができたし、駅員の方やかかりいのかたもすぐに英語で案内してくれました。首都のような大きな都市だけでなく、地方のフリーマーケット等を訪れたときも英語で対応していました。しかし、日本に帰国したとき、アジアの国であるためか、駅の案内表示はすべて日本語、中国語または韓国語で、英語表記はまだまだそれほど浸透していないのではないかと感じました。特に私は旅行中にいろいろな人に聞いて回っていたので、私がもし日本語を話せない人だったら、これは大丈夫なのだろうかと少し不安になってしまいました。確かに日本を訪れるアジア人の数は非常に多いですが、いわゆる西洋人の数も増えてきていると思えます。それらの方々の言語に対応す

ることはこれから必ず求められてくるし、駅員などのその場で働いているのみならず、街の通行人なども普通に英語で接してくれた経験から、これからの世代はますます他の外国語を求められるようになってくると思います。しかし、現段階ではまだそのレベルに程遠いと思われれます。語学を若いうちに身につけた身として、長期的な視点では、これからますます多くの複数の言語を話すことができる人材を育てていきたいと考えています。また、他人に英語力を期待するばかりではなく、自分から率先して外国人に日本の魅力をますます伝えられるような人間になっていきたいと思っています。

これから留学を考えている人たちの悩み、不安などは私も一通り経験してきたので、共感できる点もいろいろあります。費用はかかるし、最初のうちは意思疎通できないし、外国は日本と違って治安が悪いから怖いという人もいると思います。しかし、そのすべてのリスクを冒してでも、留学に行く価値はあります。それは、留学を通して得られる語学力だけでなく、海外の友人を得ることができるというだけでもなく、ただ自分のためだけでも行く価値があります。日本から留学していく人の多くはまだまだ18歳から20歳前後の若い世代で、就職活動や仕事などに時間をひたすら割かなければならない、縛られた時間を過ごす世代ではなく、非常に自由な世代です。その自由な時間にできるだけすることは、どんな苦痛を課してでもやるべきです。もし自分に何か具体的な目標があって、それを達成するための選択肢の一つに留学がある場合、自由な時間が多いうちに絶対に取り組むべきです。海外の方では就職してから一度退職して勉強をしに来たという人や、結婚後に家族を連れて勉強しに来たという人が大勢います。しかし、残念ながら今の日本ではそれは非常に難しい決断です。費用の問題だけでなく、周りの目線など、日本の閉鎖的で集団を重んじる価値観がまだ一番重要だと思われているためです（その価値観を変えていくのは今の私たちの課題であると思いますが）。それを一番自然な形で避けることができるのが留学です。また、留学であれば学校側も、世間体もすべて留学をプラスのものとして見なしてくれます。これを利用しない手はないと思います。非常に手軽な（費用という意味ではなく）自己投資の手段として留学して、大いにいろいろな経験をし、失敗をし、笑って泣いてきたらいいと思います。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。